

・・・プログラム・・・

<Stage1>近代とバロック

- 牧歌から 第I・第V・第VII曲
(作曲:L.ヤナーチェク)

- オーボエ協奏曲二短調
(A.マルチェッロ)

【独奏 玉田 周哉】

1Andante e spiccato 2Adagio 3Presto

<Stage2>大作曲家のポピュラー音楽

- やぎさんゆうびん～小鳥のうた
(団伊玖磨～芥川也寸志)

- 小さな空 (武満徹)

- ゴジラのテーマ (伊福部昭)

- エリーゼメドレー (ベートーベン)

- ジュピター／平原綾香 版
(ホルスト)

- ウェストサイドストーリーから「アメリカ」
(バーンスタイン)

<Stage3>メンデルスゾーンの傑作室内楽曲

- 弦楽八重奏曲変ホ長調 作品20
(F.メンデルスゾーン)

- 1 Allegro moderato, ma con fuoco
- 2 Andante
- 3 Allegro leggierissimo
- 4 Presto

<Stage1>近代とバロック

- 牧歌から 第I・第V・第VII曲
(作曲:L.ヤナーチェク)

ヤナーチェクの曲と言えば、我々のようなアマチュア弦楽合奏団がよく演奏するのは6曲からなる「弦楽のための組曲」で、当楽団の2008年定期演奏会プログラムにも入れました。今日はヤナーチェクの地元チェコで、その組曲に勝るとも劣らない人気のある『弦楽のための牧歌』からI・V・VIIを演奏することにしました。

この曲は、ドヴォルジャークやスメタナに強い影響を受けたと言われる1878年(当時24歳)に作曲されたもので、ボヘミア音楽らしい叙情性溢れる美しい旋律の曲でありながら、日本では演奏される機会が少なく、販売されているCDも少ないようです。

アマチュアが演奏するには少し難しいということもあるのですが、この度挑戦してみました。
●解説:高橋 文明(チェロ)

...

- オーボエ協奏曲二短調
(A.マルチェッロ)

- 1 Andante e spiccato
- 2 Adagio
- 3 Presto

オーボエが主役となる珠玉の名曲はというと、マルチェッロのオーボエ協奏曲を挙げない方はいないでしょう。アレッサンドロ・マルチェッロはヴェネツィアの貴族の出身で、音楽だけでなく、絵画、詩作に秀で、哲学、数学にも造詣のある多才の人でした。ヴェネツィアの自邸で毎週のように自作曲による演奏会を開いたと伝えられていますが、今日まで残された曲は意外に少ないのです。

このオーボエ協奏曲は、初めJ.S.バハが編曲したチェンバロ独奏用の協奏曲二短調として知られ、ヴィヴァルディの作とされていましたが、原曲の出版譜が発見されて、アレッサンドロ・マルチェッロの二短調のオーボエ協奏曲として確認されました。

曲は、急・緩・急の3楽章で構成され、第1楽章はヴァイオリンとヴィオラのユニゾンによるリトルネロ主題が印象的です。

第2楽章はオーボエ・ソロの哀愁に満ちたカンティナーレが美しく、この楽章がイタリア映画「ヴェニスへの愛」に使われ、一躍ポピュラーとなりました。

第3楽章は、急速な16分音符の主題による舞曲風の2部形式となっています。

●解説:星 秀幸(コントラバス)

<Stage2>大作曲家のポピュラー音楽

第2部は、純音楽(クラシック)分野の大作曲家が残した、ポピュラリティーあふれる音楽を取り上げます。それは童謡や、映画音楽、ポップクラシカルとしての流行歌などの形で演奏されています。芸術音楽と大衆音楽は本来区別されるものではなく、音楽の女神が見せる二つの表情に過ぎないということをテーマとしたいと思います。

- やぎさんゆうびん～小鳥のうた
(団伊玖磨～芥川也寸志)

団伊玖磨、芥川也寸志の両氏は、オペラやシンフォニーといった多くの純音楽作品で知られていますが、一方で誰もが親しんだ童謡・唱歌にも作品を残しています。その中からかわいらしい2曲を選びメドレーにしました。

- 小さな空 (武満徹)

武満徹さんは斬新で難解な手法を駆使した前衛作曲家というイメージがあります。でも実は非常にポピュラリティーあふれる作曲家であり、映画音楽・マスコミ音楽の分野でもたくさんの曲を手掛けています。

本日演奏する曲はもともと連続ラジオドラマのテーマ曲で、のちに合唱曲となり広く親しまれています。

- ゴジラのテーマ (伊福部昭)

北海道とも関係の深い伊福部昭さんは、民族主義的な力強さを特徴とする数多くの純音楽作品を残していますが、映画音楽の分野でも数百年に及ぶ作品を担当しています。本日はその中から代表作ともいえる一曲を演奏します。

- エリーゼメドレー (ベートーベン)

作曲家の意図に関わらず、後世の人たちが有名クラシック曲をポップスとしてリメイクしたものを『ポップクラシカル』といいます。本日はベートーベンの『エリーゼの為に』が日本の歌謡曲・ポップスとして生まれ変わった例を2曲、原曲の一部と併せて演奏します。(エリーゼの為に～情熱の花～キスは目にして)

- ジュピター／平原綾香 版 (ホルスト)

この曲は、日本における近年のポップクラシカルの中で最大のヒット曲と言えるでしょう。平原綾香さんのもつ幅広い音域の声が、原曲の魅力を超すことなく伝えていきます。中越地震の被災者の皆さんを勇気づけた曲としても知られています。

- ウェストサイドストーリーから「アメリカ」
(バーンスタイン)

20世紀を代表する指揮者、バーンスタインは作曲家としても3つの交響曲をはじめ多くの作品を残しています。彼の作風は多様な表現様式を駆使しつつも決して難解ではなく、この点が近年再評価されています。本日は氏の代表的なミュージカル(映画)から1曲を演奏します。

●解説:島崎 洋(指揮・編曲)

...

<Stage3>メンデルスゾーンの傑作室内楽曲

- 弦楽八重奏曲変ホ長調 作品20
(F.メンデルスゾーン)

- 1 Allegro moderato, ma con fuoco
- 2 Andante
- 3 Allegro leggierissimo
- 4 Presto

メンデルスゾーンは16歳の時に、友人のヴァイオリン教師リーツの23歳の誕生日のお祝いとして、この曲を作りました。

12歳で72歳の文豪ゲーテと出会い、多大な影響を受け、そのさなかに作曲されたこの曲は4つの楽章で構成されています。

「ほどよく、それでいて情熱的なアレグロ」と指示された第1楽章では、ヴィオラのシンコペーションに支えられ、ヴァイオリンが広い音域を駆けめぐり、青春のエネルギーがほとばしるかのような情景が広がります。

第2楽章「アンダンテ」は美しい緩徐楽章です。当時「愛の告白や不幸な愛の嘆き」を表現するときに用いられる八短調で書かれ、メンデルスゾーンと過ごす時間を至上の幸福と感じ常に別れを嘆いたゲーテへの愛情がこめられています。

第3楽章「スケルツォ」はスタッカートとピアノシモで軽やかに演奏され、あたかも妖精たちの踊りのようです。姉のファニーの日記には、この楽章は「ファウスト」の幕間劇「ワルブルグスの夜の夢」を音楽化したと記されています。

第4楽章「プレスト」は軽やかさの中に力強さも加わり、一気に終結へと進みます。

原曲は4本のヴァイオリン、2本のヴィオラ、2本のチェロのために書かれたのですが、本日はコントラバスを加え、弦楽合奏形式で演奏いたします。
●解説:安達 一幸(ヴァイオリン)